

## 日々やるべきことを淡々と行い、広い視野をもって望む

きっかけは司法書士として企業や個人を支援し、感謝されていた父の姿。一方で、資格上の限界も目の当たりにしたため、より広く法的なサービスを提供すべく弁護士を志しました。

学部生時代から慣れ親しんだ学習院大学は緑が多く、落ち着いた雰囲気が魅力です。経済的な支援制度もあるうえ、第一線で活躍されている教授陣からきめ細やかな指導を受けられることを期待して進学しました。実際、植村立郎先生の刑事訴訟法の授業では、法律学の重要な基礎が身についたと感じています。それは、条文にひたすらかじりつき、突き詰めて考え、関連する判例を大切に作る姿勢です。判例の検索システム(TKCオンラインブラリー)もよく利用し、参照していました。

司法試験対策の重点は主に3つ。条文と判例を大切にすること、問題演習を中心に据えて反復して解くこと、問題演習の際は法的な論点を涉猟的に探索せず、虚心坦懐に臨むことです。木と森の双方をありのままに見ることを意識して、平静を保つようにしました。

今後は弁護士として市井の人々の声をよく聞き、決して驕らず、広い視野をもって、たゆまぬ努力を続けていける弁護士になりたいと考えています。

### ！ 後輩へのアドバイス

本院法科大学院の先生方は、各法分野の第一線で活躍されている方ばかりで、教育環境としては非常に充実しています。ただ、その環境を十分に活かすためには、多くの受験生が知っている典型的な論点や判例を事前に一通り頭に入れておく必要があります。司法試験合格までの道のりは決して平坦ではありませんが、自信を失わずに地道にがんばって欲しいと思います。



柴田 良

2017年3月修了  
(法学既修者コース)  
学習院大学経済学部経済学科卒

## そのときのめぐり合わせと感性に従って、今がある

将来に悩んでいた時期、関西の金融業を描いた漫画で法律に興味を持ちました。法学部に進学後、実家の都合で宅建の資格を取得。そのとき学んだ知識を、実際に生かせる経験が面白く、具体的に弁護士を目指すようになりました。

この法科大学院の魅力は、なんと言ってもそうそうたる教授陣。私は以前の仕事の関係で、有名な先生方の様々な教科書を研究していました。当時「自分とは絶対に縁はないだろうな」と思っていた尊敬すべき先生方が、目の前で授業をしてくださる。この感動は、自分特有なものかもしれません。

机上の学習が苦手な私は、とにかく人を巻き込み、対話を通じて知識を構築していきました。初学者にあらゆる法律を解説したり、人と一緒に判例を読んで説明の筋を通したりと、実践を通じて法律知識の幹の部分育てていった感じです。ただし、『六法全書』と、『判例百選』は穴が開くまで読みましたね。

これからは、一般民事や刑事事件などを幅広く担当できる、なんでも屋のような弁護士になりたいです。

### ！ 後輩へのアドバイス

「『六法全書』を読みなさい」「判例を読みなさい」。ほとんどの先生が口をすっぱくしておっしゃることですが、意外とこの基本がおろそかになりがちです。反対に、『六法全書』と判例を精読しさえすれば、グッと成績も上がり、合格は近づきます。先生方が尋ねる「この法律は何条ですか?」という質問に即座に答えられるかどうかを、自分の理解度の指標にしてみてください。



渡辺 丘旭

2019年3月修了  
(法学既修者コース)  
青山学院大学法学部法学科卒

## 環境を整え、型を守り、客観的に自分を分析

8年前、私は不動産賃貸業を営む会社を設立しました。経営するうち、法律的な知識があったほうが取引で優位に立てると実感したため、今度は弁護士を目標にしてみようと思いました。

「授業に毎日通うこと」を最も大事にしたかった私にとって、学習院大学の交通の便の良さは抜群でした。さらに素晴らしかったのは自習環境。近くに図書館があり、自分専用の机もあったため、余計なストレスや時間的なロスはなく、心置きなく学べました。また、入学当初、予習の方法もわからず苦しんでいた未修者の私が法律の勉強法をつかめたのは、教授たちの授業のおかげです。

司法試験に合格するには、授業をしっかり理解したうえで、合格答案をまねることが最も重要です。自分でいいと思う合格答案の言葉の使い方や文章構成をなぞり、同じような答案を書けるようにするんです。法律の理解はあっても、伝わらなければ意味がない。本学在学中、予備試験の論文試験で2度失敗し、痛感したことです。

今後は弁護士として、ご相談者のセカンドキャリア形成や資産形成の法的なアドバイスができればと思っています。

### ！ 後輩へのアドバイス

大事なことは3つ。授業をとにかく理解し、いい成績をとること。合格答案をまねること。そして「自分の実力は司法試験短答合格者の平均よりも上だ」と確信することです。学習院大学などの小規模校だとなかなかこの確信はつかみづらいので、予備試験や全国模試、短答の模擬試験を積極的に受けて、都度自分の実力を確かめてみてください。本番に自信を持って臨むことができます。

美田 敦賜

2020年3月修了  
(法学未修者コース)  
同志社大学経済学部卒



## 心の持ちようが結果を変える。丁寧に無難に一步一步

はじめはなんとなく選んだ法学部でしたが、弁護士として楽しそうに働く兄の影響で、実際に法曹を志望するようになりました。

学部在籍した頃からの親しみある場所で、面倒見のよい弁護士の先輩たちからゼミ形式でサポートを受けられたことは、非常に勉強しやすかったです。授業では、現役の検察官である高橋先生の刑事訴訟法は印象的です。模擬法廷教室で行った模擬裁判は、テレビで見て想像していた以上に厳しく、難しい現場でした。

私が本試験で重視したことは、無難で丁寧な「守りの答案」の作成です。1回目の司法試験で、自信のあった科目となかった科目の結果が想定と逆転していたことから、自分本位ではなく、相手に読んでもらうための答案作りを心がけるようにしました。ただ、最後の試験までモチベーションを維持することには苦労しました。「この道を選んだ以上、受かるしかない」「援助してくれている親に報いたい」という思いでどうにか乗り切りました。

司法修習を終えたら、兄のように、国選の刑事裁判から家事審判、交通事故までを扱うような、町の弁護士になりたいですね。

### ！ 後輩へのアドバイス

この法科大学院の環境は、ものすごく厳しいわけではありません。ですから、司法試験合格を手にするためには自分で覚悟を決め、意識的に勉強していく必要があります。大学院修了から司法試験までの時間は長く、試験に落ちてしまえばまた1年。その間、いかにモチベーションを高めて続けていくかが重要なので、地道に努力して一つひとつ成果を積んでいくとよいと思います。

桑原 拓也

2018年3月修了  
(法学既修者コース)  
学習院大学法学部法学科卒



## 一問一答

### Q. おすすめ、好きなテキストは？

- 中森喜彦先生『刑法各論』は、メジャーとは少し外れるかもしれませんが、『基本刑法』で書き方に困るときに別の視点が得られて参考になりました。
- 『会社法 (LEGAL QUEST)』です。これを読めば会社法の全体を一応網羅することができます。これと百選を合わせて読むことをおすすめします。
- 『警察学論集』に穴戸常寿先生が連載している憲法のテキストがとてわかりやすくオススメです。『憲法学読本』と『憲法 解釈論の応用と展開』の橋渡しのな使い方ができると思います。



### Q. 短答の目標得点は？

- 論文の負け分をカバーできるように、ある程度は取りたいと思いました。
- 短答は苦手だったので、足切りにならないようにと思っていました。昨年の司法試験結果で総合得点10点足らずで不合格だったので、その分稼ぎたいと思っていました。
- 足切りさえされなければ良いと思っていました。



### Q. 合格までの総勉強時間は？

- 1日の勉強時間は、たぶん10時間はしていないと思います。
- 今年に関していえば、1日に決まった時間(だいたい7~8時間)を勉強するように心掛けていました。
- 勉強を始めて4年ほどかかりました。司法試験直前期は寝ても覚めても、勉強していました。



### Q. 時間を無駄にしたと思う勉強法、司法試験対策の失敗談は？

- 短答の勉強に、法科大学院生向けのe-learningシステムの短答式過去問題演習トレーニングを使用して、間違った問題について抜き出した肢別ノートを作っていましたが、分野別になっていなかったため、結局苦手分野について別のテキストを使うことになりました。このあたりはもう少し工夫してもよかったと思いました。
- 当初、丸暗記に頼っていたのが良くなかったです。暗記だけだと使える知識になりません。それを自覚してから、覚えたことを知識として自分の中で消化して、それを現場で出せるようにすることを意識して勉強するようにしました。
- 論文をあまり書かなかったことや、短答専用の対策をしなかったことです。上位を狙うことを考えると、やはり試験科目に応じた受験対策もやったほうが良かったと思っています。

### Q. 選択科目を選んだ理由は？

- 社会人経験からその重要性を感じていた租税法と労働法で迷って、労働法を選択しました。労働法は、新入社員がインドで自殺したという、読んでいて涙が止まらなかった判例が自分にとってより身近に感じられました。
- 知的財産法です。自分が興味を持って勉強できる分野だったので。
- 実務で何が使えるのかと考えたときに、労働法と倒産法のどちらかを考え、労働法にしました。



### Q. 司法試験に合格するための要素、あるいは法学に向いてないと思う傾向は？

- 例えば三段論法ですが、法学には作法のようなものがあり、そういったものに抵抗がある方は大変かもしれません。
- 法学は、これという正解がある分野ではないので、正解がないことに納得できない方は厳しいと思います。
- 具体的な事案を頭の中でイメージできる人は向いているかもしれません。問題文やテキストの背景にあるリアルな人間や人生をイメージすると、事案を整理しやすかったです。
- 司法試験はやるべき量が多いため、結局、継続力がないとつらいと思います。また、ただ継続するだけでなく、改善を繰り返しながら継続できるか、という点も重要になってくると思います。

THE VOICE OF THOSE WHO PASS

## 司法試験合格者の声

同期の親友の合格が希望に。  
ここで勉強すれば  
きっと大丈夫。

犬飼 俊雄

2015年3月修了(法学既修者コース)  
成蹊大学法学部法律学科卒



法曹を目指したのは、お寺を営んでいた祖父母がきっかけです。檀家さんがよく相談に訪れ、祖父母に救われ喜び姿を目にし、自分も将来は人の役に立つ仕事をしたいと思うようになり、大学で法学部を選んだのは、そんな思いを叶えるために資格を取得したいという考えが根底にあったからです。

学習院法科大学院を選んだのは、先生方が素晴らしかったこと、そして、少人数で先生と学生の距離が近いことがあります。六法の編集をされた先生、学会をリードされている先生方、東京大学を退官されて本学へ来られた先生など、教授陣の豪華さはトップクラスだと思います。少人数制なので気軽に会いにいった質問もできる。この少人数制の良さを特に実感したのは、入学前に授業を聴講した時のこと。植村立郎

先生(前教授)の「刑事法演習1」は先生と在校生ひとりに、見学者の私を加えた3人で授業体験をすることができ、「こんなにも近い距離だと必然的に実力がついていくだろう」と確信しました。実際、入学後は口下手な私も積極的に発言できるようになりました。今後法曹の仕事に生きると感じています。

私が助けられたのは学校の環境でした。馬もいれば、野生の小動物が現れることもあります。自然豊かなキャンパスを歩く度に気分転換ができました。合格まで続けられたのはこの環境があったからです。あとは仲間の存在。同期の親友が1年で合格し、彼を見て、共に学んだ自分の方向は間違っていない、このまま学習院法科大学院で頑張れば必ず受かるという希望となりました。

### Q 自習室や施設の使い勝手はいかがでしたか？

A 自習室は、私が在学中はひとり2つのデスクを広々と使えることが大変ありがたかったです。在学中は自習室、卒業してからは図書室で勉強。どちらもかなり静かで集中でき、ストレスを感じずに勉強が捗りました。

### Q 大学が提供するサービス等でよかったものは？

A 授業聴講を柔軟に受け入れてもらえるのはよかったと思います。修了してひとりで勉強する時間が長くなると、どうしてもリズムが崩れがちになります。昨年の受験期間後期は週に1日聴講の日を設けたことで勉強のリズムを保つことができました。

### Q 今後の目標を教えてください。

A 現時点では、街の弁護士になりたいと考えています。身近に解決してくれる人がいると思ってもらえる存在になれば嬉しいですね。これからいろんなことを経験しながら、自分が進む道を決めていきたいと思っています。

### Q これから司法試験に臨んでいく後輩にアドバイスをお願いします。

A 試験は相対評価ですから、まわりの受験生が書くことを意識することが重要だと私は感じました。答案化する上で自分の独特な考え方を押し付けないように、まずは基本を固める。ロースクールでの授業はきっと為になるとと思います。



## 忘れられない恩師の言葉が 今の自分へと導いてくれた。

丸山 智史

2016年3月修了(法学既修者コース)  
明治大学法学部法律学科卒



高校1年生の進路相談の時、担任の先生から、「今から10年後、20年後に法律の世界が大きく変わる。もうすぐ法科大学院というのが設立される。お前は法曹となって人を救うんだ」と説かれ、熱心に法学部や法科大学院を紹介されたんです。その時は法律や法曹に対して漠然としたイメージしかなかったのですが、その翌年に先生が急性白血病を患って急死。そっと私に「本当は大学で法律の勉強をしたかったんだ」と告げられた時、先生が私に対して法学部に行くよう熱心に説いていた理由がわかったんです。その後、裁判官が被告人に、さだまささんの楽曲「償い」の歌詞を示し、更生を諭したニュースが話題となったことをきっかけに法曹や法律に関して次第に興味を持つようになりました。法学部で刑事法や刑事政策を学んだ際に「償い」を改めて聞き直してみたところ、曲の奥深さや刑事事件の重みを感じました。恩師の意思を胸に秘めて法学部へ進みましたが、大学時代に「償い」の曲に出会ったことで、法律で救いを求めている依頼者のために貢献できるような法曹になりたいと決心しました。

私は大学卒業後、社会人として就職することになりましたが、それでも法科大学院に入学したいという思いはずっと持ち続けていました。恩師の言葉通り、法曹の将来を見据えて、就職してから10年後に法科大学院に入学することを胸に社会人生活を続け、学習院大学法科大学院への入学を果たすことができました。

試験は4回目で合格しましたが、一番落ち込んだのは、3回目の受験。1年目で挑戦し、2年目で気を立て直し、3年目で、というところで、なんと願書を出し忘れたという大失態をしてしまいました(笑)。その悔いをバネに、しっかりと立て直し、今までの分を取り返すため必死で頑張った結果、合格することができました。

私は、ずっと回り道の人生ですが、それがきつと法曹になった際に役立つと考えています。

回り道を恐れず、どんな困難があっても諦めずに勉強を続けられれば、皆さんもきつと素晴らしい法曹になれると思います。

### Q 本学が提供する環境、サービス等でよかったものは？

A 夏休みのエクスターンシップです。「法テラス」への実習に行ったのですが、実習期間中に司法試験の合格発表日があり、一緒に参加した女性スタッフの方がなんと合格。「おめでとうございます」と盛大に祝福されている姿と自分を重ねることで、自分も司法試験に合格したいという明確なビジョンを描くことに役立ちました。

### Q 本学の授業で印象的だったものを挙げてください。

A 入学前に荒木新五先生(前教授)の授業を見学させていただき、実際に荒木先生の「民法演習」を選択しました。また、大学の説明会で出会った望月栄理子先生(前教授)は凛々しくて格好良く、先生の下で学びたいと思いました。

### Q 司法試験対策で重視したこと。

A 答案を時間内に仕上げるために、ストップウォッチを常備していました。また、日々の勉強のなかで、読みやすい答案を作成できるよう心掛けていました。

### Q 今後の目標を教えてください。

A 災害や病気で苦しんでいる方を法律で救済する活動に取り組んでいきたいと考えています。「税務」「ビジネス法務」に関する専門性についても磨いていきたいと考えています。



## 司法試験合格者の声



自分なりに試行錯誤して、  
向かった道。  
悩みながら進んだ  
この時間に後悔はない。

吉田 晴香

2016年3月修了(法学既修者コース)  
立教大学法学部法学科卒

幼い頃から正義感が強かったと思います。小学生の頃は弁護士や検事が活躍するドラマや映画が多く、困っている人の力になれるのがかっこいいなと漠然と思っていたことが法曹へのきっかけになっているのだと思います。

本学を選んだのは、私は勉強があまり進んでいなかったこともあり、大学の先生からしっかりと勉強に打ち込める環境で、先生の質が高い学習院法科大学院が良いのではないかとすすめていただいたことが一番の理由です。

数々の先生に支えていただいたのですが、なかでも刑事訴訟法の安村先生には、友人と3人で2月くらいまでずっと隔週で答案を見ていただいたりと、かなりお世話になりました。時に厳しい意見をいた

だき、親身になっていただいたことを感謝しています。

刑事実務と民事裁判はどちらも模擬的な裁判を行うのですが、準備がとても大変だったこともあり、印象に残っています。起訴状を元に、どこを争点として決めるのかなど、チーム内で意見を出し合いまとめる難しさを知りました。緊張感があり、本番さながらに行うので、リアルに将来をイメージでき、法曹への思いを一段と強くしたことを覚えています。

3年かかりましたが、3年全部必要だったと今は思います。自分なりに試行錯誤して、向かった道。悩みながら進んだこの時間に後悔はありません。この先、きつと生きてくるのだと感じています。ロースクールにいる間は、全部吸収してほしいです。無駄になることは何もありません。最後までどうか諦めないでください。

### Q 本学の施設や環境について教えてください。

A 自習室や演習室は勉強に集中できる環境でした。特に自分専用の机があることがありがたかったです。勉強に飽きたら散歩できることもよかったです。緑豊かでマイナスイオンを感じ、若い大学生の会話を耳にして、エネルギーをもらっていました。

### Q モチベーションを維持する方法とは？

A 気持ちの波を作らないように、ルーティンを決めるようにしました。朝5時過ぎに起床して、6時過ぎの電車に乗って、7時半には学校に来て夜は17時には帰宅する。と決め、1日のリズムを大切にしました。あとは昨年の成績表を頻繁に見返して、刺激剤にしていました。

### Q 司法試験に向けて重視していたことは？

A 苦手科目を重点的に向上させることを徹底的にやりました。刑事訴訟法は、安村先生を頼り(笑)、「法実務講座」で論文を先輩に見ていただきました。できるだけ自分独りで勉強するのではなくて、先輩や先生に、客観的に評価してもらいながら自分の答案を見ていただくことを重視しました。

### Q 今後の目標を教えてください。

A 弁護士になりたいと思っています。民事一般を扱う、街の弁護士になりたいです。困っている人の色々な相談に対応できるような、人の助けになるような弁護士になれたらと思っています。



憧れた法曹への道、  
辞めようとは一度も思わなかった。  
自分の描いた未来を  
勝ち取ってほしい。

芦澤 亮

2014年3月修了(法学未修者コース)  
山梨学院大学法学部法学科卒



大学で講義を担当していた弁護士との出会いが法曹を目指したきっかけです。困っている人たちと誠実に向き合い、問題を解決しているその姿に憧れ、自分も目指そうと決意しました。

大学のゼミで先生に相談したところ、優秀な講師陣が揃い、少人数制で一人ひとりにきめ細やかに教えてくれる、なかなかロースクールでは珍しいとのアドバイスを受け、本学への入学を決めました。入学してみるとその通りで、先生たちともかなり身近でした。少人数だからこそ友人とも絆が深くなり、共に勉学に励む仲間がいる心強さを感じました。

どの先生も大変お世話になったのですが起案等指導の先生には時間感覚の意識付けにおいて、とても影響を受けました。授業中に問題を配られ、時間内に解いて見てもらうのですが、「時間内に書いてない

ものは意味がない、評価に値しない」と、時間内に解くことを重要視されていて、試験で時間内に答案を作り上げるスキルはここで身についたと感じています。

基本書はきちんと自分で理解するまでしっかり考えて読むことが大事。それでもわからなければ、先生や友人に恐れず聞くこと。自分では気がつかない箇所にも気づけます。そして、アドバイスをしてくれた時は素直に聞く姿勢を忘れずにいてください。

自分は今回、5回目で合格しました。挑戦して、絶対受かると思っていました。辞めようとは一度も思わなかった。それほど憧れた先生の姿が強烈だったんです。みなさんも自分の描いた未来を勝ち取ってください。

**Q** 本学の施設や環境について教えてください。

**A** キャンパスに緑があり、池もある。息抜きに散歩したり気分転換の助けになりました。自分専用の机にロッカーと本棚が揃っていたのもよかったです。集中できて、在学中はほとんどの時間を過ごしました。

**Q** モチベーションを維持する方法とは？

**A** やる気が下がった時には、初学者向けの本を読むようにしていました。「すぐに諦めなくても大丈夫!」など、はげますような言葉が書かれていて救われました(笑)。あとは、別の分野で頑張ってる友人と話し、自分も頑張ろうとモチベーションを上げていました。

**Q** 司法試験に向けて重視していたことは？

**A** 何を、どの程度書けば合格できるのか、過去問を分析して把握することが大切だと思います。1位で合格する必要はないので、どれは落としても大丈夫なども分析すること。また、基本書はただ、漫然と読むのではなく、答案を書くときに使えるように、ポイントを考えながら読む方が覚えやすいです。

**Q** 今後の目標を教えてください。

**A** 弁護士を志望しています。これから司法修習で幅広い法律知識を学び、社会に貢献できるような弁護士になっていきたいと思っています。分野などは、まだ具体的に決まていないのですが、これからたくさん見て、決めていけたらと思います。



THE VOICE OF THOSE WHO PASS

## 司法試験合格者の声

今、できることを必死にやること。  
 恩師の言葉に何度も支えられ、  
 合格へ。

江渡 倫子

2014年3月修了(法学既修者コース)  
 学習院大学法学部法学科卒

小学生の頃から漠然とあこがれていた法曹への夢。具体的になったのは学習院大学法学部へと進学し、法律の奥深さや人の役に立てる仕事だと実感したことからです。学生の頃から大学の雰囲気合っていたこと、ゼミの先生が大学院でも教鞭を取られるとのこともあり、大学院も引き続き学習院で学ぶことを決めました。

すべての授業や先生にお世話になりました。中でも印象に残っているのは対話形式で進むソクラテスマソッドです。特に西田先生は教室中を歩かれながらふいに質問を投げかけ、実際の会話の中で常に回答を求められました。応用力、思考を止めない癖の形成に役立つと思っています。

選択科目で選択していた神前先生の国際私法は、これだけで国際私法

についての司法試験の準備は整うほど充実した内容でした。

スタート時のレベルは人それぞれ。私は基礎力がないまま院に入り、つい周囲と比べて不安になったりもしました。けれど「今、できることを必死にやること」が結局は大切だと思います。予習を一生懸命やる、授業は休まない。一回でも休むと気持ちが途切れてしまう。地道ですがここが基本です。

辛い時に何度も支えられた植村先生の言葉があります。「今、授業に耐えられないようだったら、他人の人生を左右するような法曹の仕事には絶対に耐えられない。あたりまえの努力さえしていれば受かる試験だと思いなさい」。このような先生方の言葉や授業に助けられ、合格に繋がったのだと思っています。

### Q 自習室や施設の使い勝手はいかがでしたか？

A 私は、数時間ごとに環境を変えた方が集中する性格でしたので自習室、図書館、学生自習室など色々な場所で勉強ができる環境が整っていることがありがたかったです。

### Q 本学の環境の良さはいかがですか？

A 大学から慣れ親しんだキャンパスは緑も多く、勉強で疲れた気持ちをリフレッシュしてくれたと思います。散歩するだけで救われたりしました。

### Q 長丁場の受験期間を乗り切るコツは？

A 感情の振れ幅が大きくなると、元の状態に戻すことはとても大変になります。ですから、いい成績の時もあまりよくない時にも、常に感情をフラットに保つことを心がけました。一喜一憂するよりも、結果をどうやって次に活かすかに注力することが大切だと思っています。

### Q 今後の目標を教えてください

A 現時点では、検察官志望ですが、弁護士や判事も視野に入れ、これからはじまる司法修習で、多くの法曹の方々とふれ合いながら、自分が進む道を決めていきたいと思っています。





「頭の中に入っていないことは  
試験会場でも出てこない」  
基本事項の記憶とそれを  
前提とした理解が大切。

吉田 秀和

2017年3月修了(法学既修者コース)  
東京大学法学部中退  
独立行政法科大学改革支援・  
学位授与機構より法学士号取得



ドラマや映画を通し法曹には世の中を変える力と世の不条理と戦う力があると感じてきたことがこの道を目指すきっかけでした。高校時代に伊藤栄樹元検事総長の「巨悪を眠らせるな」との言葉を目にし、戦う強い力が実在することを知り法曹への道が具体的になりました。

東京大学法学部を中退し一度は諦めかけていた法科大学院進学・司法試験受験を再び決意しました。学習院を選んだ理由は少人数制であること、職員さんの対応が丁寧だったこと、特待生入試があったことです。実家が被災していたこともあり、負担はかけたくなく特待生で入学しようと探していた際、学習院で特待生入試が開始されたことを知りました。

どの授業も素晴らしかったのですが、あえて挙げると「模擬裁判」です。

法律書を読んでいるだけではピンとこなかった裁判の流れがよく理解でき、将来必ず役に立つと感じています。

司法試験の勉強は基本事項の記憶とそれを前提とした理解が大切かと思えます。暗記は良くないといわれることもありますが「頭の中に入っていないことは試験会場でも出てこない」。根底のところ、勉強は記憶・暗記が大事だと思っています。

アドバイスは「受け身の姿勢ではもったいない」ということ。わからないことがあれば、どんどん先生に質問をすることが大切です。先生も必ず受けとめ、応えてくれます。少人数で先生と生徒が近い学習院大学法科大学院のメリットを最大限に活かしてほしいと思います。

**Q** 自習室や施設の使い勝手はいかがでしたか？

**A** 自分専用の机があることで集中することができました。朝から晩まで授業以外は23時の閉室まで自習室にいました。一番勉強がはかどる場所でした。

**Q** 本学の環境の良さはいかがですか？

**A** 法学部経済学部の図書館があり蔵書がすばらしかったです。以前独学をしていた際は国会図書館を利用していたのですが、そこまですることがなく、調べにいくと、他の大学の法律雑誌もあり、資料が充実しているのが魅力でした。

**Q** 長丁場の受験期間を乗り切るコツは？

**A** 年齢を重ねていたこともあり必ず1発合格しようと思っていましたので、それほどモチベーションは下がらなかったのですが、一緒に同じ目標を目指している仲間がいること。これがモチベーション維持に役立ったと思います。

**Q** 今後の目標を教えてください

**A** 当初は検察官を志望していたのですが、弁護士は自分の可能性を試せる機会がかなりあると思い、弁護士を目指そうとは思っています。英語と中国語の語学力を活かした国際的な活躍も視野に入れ、司法修習に臨みたいと思っています。



THE VOICE OF THOSE WHO PASS

## 司法試験合格者の声

教授との距離が近い  
 少人数教育と  
 ゼミを活用した試験対策で  
 合格を勝ち取りました。

渡辺 智己

2012年3月修了(法学既修者コース)  
 明治大学法学部法律学科卒



弁護士である父の背中を見て育つ中で法曹をめざし、本法科大学院を選びました。その理由は、当時、憲法を担当されていて、ぜひ学んでみたいと思った先生がいらっしゃったこと、また、「少人数制」という環境に身を置きたかったからです。

充実した授業が多い中でも特にインパクトがあったのは「刑事訴訟法」の授業です。実務家(検察官)の先生の授業だけあって、法廷さながらの緊張感が教室にも漂っていたのが印象的でした。また、少人数で指導を受ける「起案等指導」の授業では、法曹に不可欠な論理的な文章作りをしっかりと学ぶことができました。先生方はとても親身で、法科大学院修了後にも、引き続きご指導をいただくこ

とができ、勉強の大きな励みとなりました。

法科大学院で学ぶ上で大切なことは、各授業の予習・復習をしっかりやるといった日々の積み重ねだと思います。その中で自分が理解できていないことがあれば、すぐに同級生や先生方に気軽に質問できることが、少人数制である本法科大学院の大きなメリットだと感じました。

司法試験対策としていちばん役立ったと感じたのは、同級生と二人で組んだ自主ゼミです。そこでお互いの不明点や疑問点を議論しながら、自分の課題に気づき、不足している知識を補えたことが、司法試験合格につながったのではないかなと思います。

**Q** 自習室などの使い勝手はいかがでしたか？

**A** 自習室と図書館は素晴らしいと思いました。特に図書館は蔵書数がかかなり多いという印象です。法律関係書でも他大学の図書館なら1冊しかないような本も複数冊あり、いつでも閲覧できて助かりました。

**Q** そのほかに本学の環境の良さはいかがですか？

**A** まず、毎日通うことを考えると目白駅前という立地が最高ですね。学内には緑も多いですし、スポーツジムもあります。日々の勉強量が多いだけに、息抜きは欠かせませんが、その面でも十分な環境が整っていると思います。

**Q** 長丁場の受験期間を乗り切るコツは？

**A** やはり良きライバルである同級生たちの存在を意識しながら、自分の現状レベルをしっかりと認識して励みにすることかなと思います。私は、修了後合格まで時間がかかりましたが、その間、常に先に受かった同級生たちを意識していました。

**Q** 今後の目標があれば教えてください

**A** 弁護士の道に進みたいと思います。私は高校まで野球をやっていたので、その経験を活かして、将来はスポーツ業界やアスリートたちに、弁護士という立場で何か貢献できればと思います。



## 授業と基本書で 基礎をしっかりと学び 知識を積み重ねることで 憧れの法曹界へ。

丹治さやか

2013年3月修了(法学既修者コース)  
慶應義塾大学法学部法律学科卒



弁護士事務所でのアルバイトを通して、法律で人助けをされている弁護士さんたちの姿に感銘し、法曹をめざしました。本法学大学院を選んだ理由は、「少人数制」であることが第一にありました。というのも私は自分に甘く、自己管理能力に欠けている面がありましたので、その点を先生方との距離の近さによって補おうと思ったからです。また民法の能見善久先生をはじめ、著名な先生方が揃っていることも魅力でした。

授業では特に大橋洋一先生の「行政法3」が印象に残っています。対話形式の授業が多い中で、「行政法3」は時間内に問題を解いていくというスタイルの授業内容でしたので、司法試験対策としても大

いに役立ちました。また「模擬裁判」では裁判官役を担いましたが、日ごろの勉強で得た知識を実際の法廷ではどう活かすのか、ということが実践的に学べ、同時に法曹になることへのモチベーションも高めてくれました。

司法試験に向けて大切なことは、「基本書」をしっかり読み込むことだと思います。その土台の上に新たな知識を積み重ねていくことを心がけるようにしました。そして、疑問はすぐに解消させること。本法学大学院の先生方は、授業中や個別対面だけでなくメールなどでも質問に答えてくださいます。いつでも様々な方法で先生方に質問できたことは、司法試験合格への大きな支えになったと感謝しています。

### Q 自習室などの使い勝手はいかがでしたか？

A とても快適でした。自分専用の広めのデスクや本棚があり、つい、自分の部屋のように使ってしまいました(笑)。本の詰まった重い荷物を毎日運ぶということはありませんでしたので、通学時もすごく助かりました。

### Q そのほかに本学の環境の良さはいかがですか？

A 勉強面では図書館の充実した環境がすごく役立ちました。また、法科大学院の校舎の最上階に美味しいレストラン、1階にはサンドイッチ屋さん、そして近くの建物にはコンビニがあったことも、勉強の息抜きにも使えてとても良かったですね。

### Q 長丁場の受験期間を乗り切るコツは？

A 自分がついつい避けようとする、後回しにしようとするところから逃げずに、日々、自分の課題を確認し、すべきことと向き合っていくことかなと思います。

### Q 今後の目標があれば教えてください

A 個人事務所を営んでいる先生のお手伝いをした経験から、将来の目標は、自分の個人事務所での弁護士活動です。そのために、幅広い分野の法律知識を得ることを課題に経験を積んでいきたいと考えています。



# 司法試験合格者の声



少人数のソクラテック・メソッドと  
厳しい指導が、私を合格に導いてくれました。

## 野崎 正彦

2013年3月修了(未修者コース)  
学習院大学法学部卒



高校時代に家族にある問題が起きたとき、困難に直面している人たちのために働く法曹の存在を知り、自分も困っている人の手助けをしたいと思うようになりました。本学で学ぶことにしたのは、出身大学のロースクールであることと、高名な教授陣による指導に期待したからです。

入学直後に受講した「起案等指導1」では、文章の長い判例の事案と判旨をA4・1枚にまとめることを課されました。この授業の特色は、先生による添削を受けた文章を他の受講者の前で発表するところにあります。最初に提出した課題は、みんなの前で先生から徹底的にダメ出しをされ

ました。しかしそのときの恥ずかしさと悔しさがモチベーションとなり、法律家に必要な文章力を磨くことができたのだと思っています。

また、生まれて初めて経験した少人数のソクラテック・メソッドによる授業では毎回発言を求められ、その緊張感のおかげで予習・復習に自然と力が入り、そのことが大きな糧となりました。

私は、大学院在学中に結婚をし、子供もできました。「家族のためにも必ず合格しよう」と強く思い、勉強が辛くなったときは、家族が合格を祝ってくれる場面を想像することで乗り切りました。

**Q** 学内の施設の利便性はいかがでしたか？

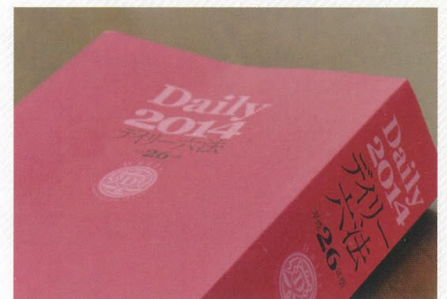
**A** パソコン、プリンター、判例資料など、勉強に必要なものはすべて揃っていて、大変便利でした。

**Q** 司法試験受験に必要な心構えは？

**A** 諦めない気持ちを持つことです。司法試験は5日間にわたる長丁場ですから、最後まで諦めることなく立ち向かった者にしか、「合格」という結果は出ないと思います。

**Q** ロースクールで学ぶ後輩にアドバイスを

**A** 何よりも大切なのは予習です。授業で扱うところをしっかりと予習しておくことで、授業の理解が深まり基礎知識の定着につながります。



常に携行していた『デイリー六法』は、私の大切な「相棒」です。

自身の家族問題をきっかけに、「家族に関する問題で辛い思いをする人を一人でもなくしたい」という思いから法曹を志し、少人数制で、優秀な先生が教鞭を執っておられる本学で学ぶことに決めました。

特に役立ったと思う科目は、各自が1つのテーマについて深く掘り下げて考え、レポートを作成・発表・議論する「刑事法演習4」です。担当の西田先生、植村先生は、議論をする中で学生だけでは気づかないような視点を提示して下さり、各テーマについての理解をより深められました。また、さまざまな論文を読んだ上で自分の見解をまとめる過程で、論理的な文章作成能

力が養われ、その能力は司法試験にも活かされました。

先生への質問がしやすいオフィスアワーが設定され、ロースクールの授業を補完するために法学部の授業も自由に聴講できるといった環境が整備されていたのも、学習院で学んでよかったと思うことの1つです。

将来は、家族に関する紛争の予防・解決に取り組む弁護士になるつもりです。特に高齢化社会で多くの家族が直面するであろう相続・後見・シニアの財産管理の分野に関心があり、それらの問題に取り組むことで、多くの家族が幸せな生活を送れるように支援をすることが目標です。

問題を深く掘り下げながら  
自分の考えをまとめる訓練を通して  
法曹に必要な論理的思考力と  
文章作成能力が培われました。



渡辺 晃子

2013年3月修了(既修者コース)  
上智大学法学部卒



**Q** 自習室の使い勝手はいかがでしたか？

**A** 広い机は六法や参考書を同時に開くことができ、ストレスなく勉強することができました。席だけでなく各自にロッカーや本棚も与えられ、気になればすぐ教科書等を参照できる、申し分のない環境でした。

**Q** モチベーションの維持で工夫したことは？

**A** 自習室には朝早くから遅くまで勉強している学生がおり、その姿を見るだけで「自分も頑張らなければ」と思えるので、毎日自習室で勉強するようにしました。また、実務家教員の先生方にお話を伺い、どんな法曹になりたいかというイメージが膨らみ、勉強に対する真剣みが増しました。

**Q** 司法試験対策で重視したことは？

**A** 自分の弱点を分析して、その弱点を克服するためにはいつまでに何をすればよいかを考えて学習計画を立てたことです。そして学習計画を確実に実行できるよう、自主ゼミを組んで取り組みました。



この万年筆と共に、司法試験の4日間を戦い抜きました。

熱意溢れる先生方の丁寧な指導が  
主体的に学ぼうとする学生を  
後押ししてくれます。



赤井 耕多

2015年3月修了(既修者コース)  
法政大学法学部卒



冤罪事件で無罪を勝ち取った弁護士の姿を見て、自分も「味方がいない人のために闘いたい」と思うようになりました。本学を選んだのは、学部時代に使った教科書の執筆者である著名な先生方がおられること、またソクラテック・メソッドによる積極的な授業参加ができることに期待したからです。

既修ながら民事訴訟法をあまり深く勉強したことがなかった私には、ケースブックを利用しながら展開される稲田先生の「民事訴訟法1」と、長谷部先生の「民事訴訟法2」が特に意義ある授業となりました。予習には5~6時間かかることもありましたが、このケースブックを使っ

てくれたと思っています。授業後に質問をすると、先生が次の教室に向かって歩きながら熱心に説明して下さったことも忘れられません。

このように学生と先生との距離が近いロースクールなので、学生の側が主体的に学び取っていく姿勢と、「絶対に合格する」という決意を持つことが大切だと思います。

私はさまざまな社会問題に関心を抱いているので、幅広い分野で活動できる弁護士を志望しています。目の前で起きている1件の事件だけでなく、その背後にある社会問題を紐解いて解決していける弁護士になりたいです。

**Q** 本学の特長科目である「起案等指導(現在は法文書作成指導)」を受けての感想を

**A** 自分の文章を先生に酷評されて悔しい思いをしたこともありましたが、どうすれば評価してもらえる答案を書けるか常に意識して努力しました。次第に文章が良くなっていくことを実感し、先生からも「この調子でいけば合格は遠くない」と言っていたことが、試験に立ち向かう勇気になりました。

**Q** 学習意欲を長期間保つための秘訣は?

**A** 楽しんで勉強することがモットーだったので、暗記よりも考えること重視の勉強をしました。いつも同じ机に向かっていると飽きるので、自習室だけでなく図書館を利用するなど、環境を変えて気分転換することもありました。

**Q** これからロースクールで学ぶ後輩にメッセージを

**A** 先生方は、「そこまで?」と思うほど学生に手を差し伸べてくださいますし、自習室などの施設面も申し分なく整っています。強い気持ちを持って合格を目指してください。



「民事訴訟法」の授業で使った「ケースブック民事訴訟法」。表紙がとれてボロボロになるまで読み込みました。

# 司法試験合格者の声



優秀な教授陣による緻密な指導のもと、  
計画性を持って学ぶことで  
実力をつけました。

## 飛鳥井 雅崇

2014年3月修了(既修者コース)  
専修大学法学部卒

バスに乗っていた身内が、急発進が原因で怪我をしたとき、弁護士に依頼することでスムーズに手厚い補償を受けることができ、その仕事ぶりに憧れて法曹を志すようになりました。

司法試験委員を務められるなど著名な先生が多く、少人数制で濃密な指導を受けられることに期待して、学習院大学法科大学院への入学を決めました。緑の多いキャンパスに魅力を感じたのも、2年間ここで学びたいと思った理由の一つです。

どの授業も大変有意義でしたが、とりわけ勉強になったと思うのは、野坂泰司先生の「憲法訴訟1・2」です。野坂先生は既存の学説に迎合する

ことなく、原文から素直に読んで、判例が判示していることを丁寧に分析して教えて下さいました。また、小出篤先生が担当された「企業金融法」は、判例を緻密に分析し、会社法の各種制度を明快に説明してもらえる刺激的な授業でした。さらに、松村昌人先生の「民事法総合演習1・2・3・4」は、具体的な事案を素材にした設問に生徒が解答するというもので、実務の具体的なイメージを持つことができました。

ロースクールでの2年間は、長いようで短いものです。本学に入学し、計画性を持ってしっかり勉強すれば、実力は飛躍的に伸びるはず。後輩の皆さんには、先生方を信じて頑張ってください。

Q

少人数制ならではのメリットとは？

A

先生方との距離が近く、悩みや疑問があれば、すぐに相談や質問ができる環境が整っていることです。このロースクールでは同じ学年で知らない人はおらず、自主ゼミによる勉強会が活発で、互いの顔を見ながら切磋琢磨することができました。

Q

受験までの長丁場をどのような心構えで乗り切りましたか？

A

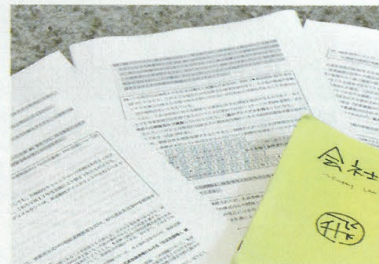
入学から2年後の司法試験を目標にすると、途中でたるむのではないかと思ったので、期末試験や模擬試験でよい成績を取ることを目指すなど、中間目標を多く設定しました。その過程で次第に実力が伸びていったように思います。

Q

将来の展望を教えてください

A

一般民事を中心に、企業法務や倒産処理の分野にも強い弁護士になりたいです。また、企業や官庁で働く機会があれば、自分が成長できるチャンスだと思って積極的にチャレンジして行きたいと思っています。



良いと感じた授業の内容を教科書等を参照しつつ、レジュメにしてまとめていました。司法試験の直前まで見直すような心強い武器になっていました。

学習院大学法科大学院には、優れた学者や実務家の先生方が揃い、なおかつ少数校のメリットが最大限に生かされています。また、入学前の説明会で教員と学生との距離の近さを感じ、形だけではなく懇切な指導体制の下、自分のやる気次第でどこまでも伸びることのできる最適な環境と感じて、このロースクールで学ぶことを決めました。

特に印象深い科目は、長谷部由起子先生の「起案等指導」です。学生がそれぞれ作った問題を題材に演習が行われるのですが、自ら問題を作成することで、司法試験における出題者側の思考を身につけるとともに、知識を定着させるのにも役立ちました。

司法試験では、基礎的知識を前提とした、現場思考を問う出題がなされるので、受験対策としては基礎固めに重きを置きました。「原則論や基礎的事項だけは絶対に落とさない」という意識を持ち、受験生の多数が書くことはどのような内容なのかという“相場観”を身につけるための努力もしました。

本番では、公法系科目に関して手応えがなかったために落ち込みましたが、5日間は前だけを見ようと気持ちを切り替え、翌日からの試験に臨みました。前述したように、「多くの受験者が書くことは絶対に落とさない」という考えで、定義、趣旨、原則論などをしっかり書けたことが、合格につながったのではないかと思います。

基礎を固めることを重視するとともに、  
出題者側の思考を身につけることで  
合格を引き寄せました。

猪原 佳奈

2012年3月修了（既修者コース）  
成蹊大学法学部卒



**Q** 自習室やその他施設の使い勝手はいかがでしたか？

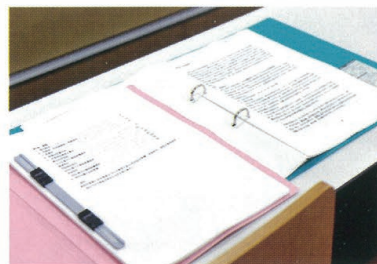
**A** 自習室は固定席で、パソコンやプリンタも自由に使うことができ、最適な学習環境が整っていました。また、自習室からは図書館が近く、分からないことがあるとすぐに文献で調べられるのも便利でした。

**Q** 授業以外で感じた少数制のメリットは？

**A** 学年が違う学生とも交流があり、授業のことを聞いたり、合格した先輩方に相談に乗って頂いたりする機会も多くありました。司法試験に合格した先輩方による答案練習会も開催され、自分の答案を添削していただいたことも力になりました。

**Q** これから学ぶ後輩の皆さんにアドバイスを

**A** 司法試験は、正しい方向性できちんと努力をすれば、必ず受かる試験だと思います。しっかりとした覚悟を持って、主体的に勉強をしてもらいたいと思います。



論文試験には、まとめノートの精度を上げることで対応。基本書だけでなく、演習をしていて分かったことや、その際に自分の考えた論理の流れなど、勉強過程で学んだすべてのことを書き込んだので、直前期や試験当日の見直しにも非常に役立ちました。



先生方や共に学ぶ仲間、  
充実した施設群…  
学習環境をフル活用することが  
私にとっての「合格への道」でした。

### 立山 大就

2014年3月修了(未修者コース)  
獨協大学法学部卒



優秀な教授陣が教鞭を執っていることと、その先生方や同級生との距離感が近い少人数制に魅力を感じて学習院で学ぶことを決めました。

入学直後に受けた岡孝先生の「起案等指導1」では、厳しく、ときに優しくご指導いただきました。特に研究課題とした年少者逸失利益の格差については、今でも興味をもって研究しています。ほかに、長大な会社法を立案者の立場から簡潔に説明してくださった郡谷大輔先生の「企業法務1」、高度な内容の授業についていだけで十分な勉強となった神前禎先生の「国際私法1・2」、「国際私法演習」などが強く印象に残っています。このように各先生方がそれぞれに趣向を凝らし、

しかも一人一人の学生の顔を見ながら最適な授業を展開してくださるのが、このロースクールの特長だと思います。

自習室、図書館、学食、トレーニングセンターなどの諸施設も使いやすいものでした。教授陣の研究室は10階・11階にあり、9階の自習室で勉強しながら階上の先生方の存在が感じられ、このことはモチベーションの維持にもつながりました。疑問が生じたときに研究室へお伺いすると、すべての先生が大歓迎で質問に答えてくださいました。それに加え、素晴らしい仲間たちに出会えたのも学習院を選んだ結果であり、このことも私が合格できた要因の一つとなったのではないかと思います。

#### Q 受験時に特に意識したことは？

A 私は3年次夏のエクスターンで、依頼者の依頼に答えることの重要性を学びました。その経験から、司法試験においても法律事務所と同様、聞かれたこと(依頼)に答えることができなければ合格すると思えました。

#### Q 長期間にわたって学習意欲を保つコツは？

A 先生方が企画してくださる海上保安庁見学、刑務所見学、裁判傍聴、実務家講演会などのイベントが充実しており、いずれも楽しく、モチベーションを向上させられました。弁護士として活躍の先輩方から薫陶を受けられる法実務講座も、ある面においては、いかなる授業よりも勉強になったと思います。

#### Q これからロースクールで学ぶ後輩に一言

A 「それぞれの司法試験」に合格するため、1分1秒を大切にしながら、精一杯努力してください。その方法が、私の場合は学校をフルに活用することでした。



選択科目では、学内試験対策で「まとめレジュメ」を作成。「どんな問題が来ても大丈夫」というレベルを目指しました。結局、本試験でもこれで十分でした。筆記具は、試験会場に持ち込める唯一の相棒。いろいろなペンを試した末に選びとり、手に馴染むまでしっかりと使い込んでから本試験に臨みました。

# 司法試験合格者の声



教授との距離が近い少人数教育と  
効率的な試験対策で  
合格を勝ち取りました。

岸田 麻希

2011年3月修了(法学既修者コース)  
学習院大学法学部卒

学習院大学法学部で学んだ私にとって通い慣れた環境であることや、教授と学生の距離が近い少人数教育にメリットを感じ、本法学部大学院に入学しました。

今も特に印象に残っている科目は「刑事訴訟法」です。実務家の先生による判例に則った授業で、学生が発言を求められる機会が多く、適度な緊張感に包まれていました。また、「公法演習」や「刑事法演習4」など判例研究系の科目では一つの判例がじっくりと掘り下げられ、調査官解説を読むよい機会ともなりました。

法科大学院生として重要なのは、言うまでもなく授業にしっかり臨む

こと。特に基礎を固める2年生で手を抜くと、3年生での発展授業や法律文書を書く場面などで苦労させられます。少人数制の恵まれた環境を活かし、教授をどんどん「利用する」くらいの気構えを持ってください。個人的な試験対策としては、仲間数人と自主ゼミを組んだほか、合格者が指導してくれる日曜答練にも参加。それとは別に、旧司法試験の問題も検討しました。旧司法試験の問題文の中には、さまざまな論点や試験委員が受験者に問いたい意図が明確に含まれています。憲法の統治問題や民訴の1行問題は、一見現在の試験には直結しないようできて、十分な短答問題対策となりました。

## Q 自習室などの使い勝手はいかがでしたか？

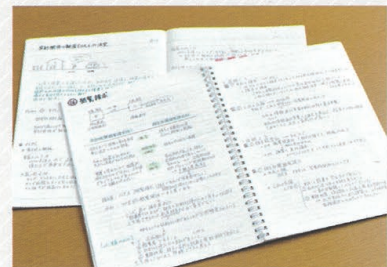
A 私の在学中に固定席や書棚が与えられるようになり、申し分のない環境でした。自宅での自習を好む学生もいますが、必要があればすぐに教授に質問に行けることも含め、利便性の高い自習室を利用しない手はないと思います。

## Q 学習しながら特に念頭に置いていたことは？

A 自分の実力を知り、どこを捕って、どこを伸ばすかを正しく分析することです。また、上を見過ぎず、まずは「一応の水準」に達することを目標にしていました。肉付けはそこからです。

## Q 長丁場の受験期間を乗り切るコツは？

A 同じような勉強スタイルや、モチベーションの高い友人と一緒にいることです。時には適度な息抜きや、自分へのご褒美も必要だと思います。



科目ごとに演習本等を素材とした「まとめノート」を作成。「その1冊に必要な全てがまとまっている」という状態を目指しつつも、重要事項のみを簡潔にまとめて、内容を広げ過ぎないようにしました。試験の際は、このノートだけで確認が事足りました。

高名な教授が多いことと、ソクラテスメソッドによる密度の濃い授業に期待して学習院の法科大学院で学ぶことを決めました。

どの授業も充実したものでしたが、個人的に特にためになったと思う科目は、「国際私法1・2」です。事前に提示された課題をこなすだけでも膨大な量の資料を参照しなければならず、授業ではどんな参考書にも載っていないような質問を投げかけられました。必死にくらいつく中で国際私法を本質的に理解し、試験では得点源とすることができました。

教授に質問しやすく、学生同士の情報交換や自主的なゼミも活発な

学習環境は、少人数制のロースクールならではのものではないでしょうか。PC、プリンタ、コピー機などを完備する自習室も非常に快適でした。そのようなキャンパスで良い友人に恵まれ、切磋琢磨し合う中で自分を高められたことも、合格に至る大きな要因だったと思います。司法試験は人生を大きく左右しますが、気負わず背負わず、日々単純単調にコツコツと勉強していくことがとても大切です。

今後は実務経験を積みながらスキルを磨き、将来的には一般民事を中心にオールラウンドにこなせる弁護士となって、市民レベルでの社会貢献を果たすつもりです。

恵まれた学習環境を最大限に活用し、  
合格に必要な知識や  
論理力を着実に養いました。

## 増島 泰

2012年3月修了（法学既修者コース）  
関西大学法学部卒



**Q** 本学の特徴的な科目である「起案等指導」や「公法演習」を履修しての感想は？

**A** 「起案等指導」では、論文を書く上での大前提となる「三段論法」を徹底的に教え込まれました。「公法演習」では、著名な判例や最新の判例を題材に、学生が主体となって発表や議論を实践。それを補充するかたちで教授から背景事情などが講義され、判例の理解の深化に非常に有用でした。

**Q** 授業以外の場では、どのような試験対策に取り組みましたか？

**A** 短答についてはひたすら過去問を解き、友人と問題を出し合ったりもしました。論文については自主ゼミを組み、互いの答案を添削することで、自分なりの方法論を確立していきました。

**Q** これから法科大学院で学ぶ人へのアドバイスをお願いします。

**A** 真に重要なのはロースクールに入るのではなく、そこでどう学ぶかです。試験当日までいかに自分を高められるかを意識し、受け身ではなく主体的な勉強をしてください。



判例も記載された六法を裁断してコンパクトにし、電車での移動時間等に読んで知識を蓄えました。